

# ニュースレター

## NO. 73

発行 / NPO 法人市民活動サポートセンターいなぎ  
事務局 / 〒 206-0802 稲城市東長沼 2112-1  
稲城市地域振興プラザ 1F  
TEL 042-378-2112 FAX 042-378-6971  
E-mail : info@i-inagi-support.org  
http : //www.i-inagi-support.org/

## 新しいコミュニティの姿を求めて



すぎやま えり  
杉山 恵理さん

対 談

むらまつ すみか  
村松 純香さん

3年以上に及ぶコロナ禍で、従来の地域コミュニティが活動の縮小や停滞を余儀なくされる中、子育て世代のママさんたちが主導して、地域への関心や問題意識を共有する仲間とともに新たなコミュニティを創る活動が芽吹いてきています。

そこで今号と次号の2回にわたり、新たなコミュニティづくりに取り組んでいる方々をお招きして、対談形式で地域活動への思いや課題などを伺っていきます。 (司会と構成:種田匡延)

**司会** 今回は、主に南山・百村地区で活動する杉山恵理さんと、主に平尾地区で活動する村松純香さんにご出席いただきました。まずは杉山さんからお願いします。

### 自分が住む地域で仲間と一緒に

**杉山** 元々、私は地図が好きで、子育て中に欲しかった情報があまりないと思ったことから、同じように思っている人や情報がなくて孤独になってしまっている人の助けになることができたら良いなという思いで、市内のお祭りマップや公園紹介ページを作り始めました。その活動中に知り合った方たちと、子育て中の方の役に立つように「子育てマップ」を作ることにし、「いなぎ地図ラボ (現在は「いこねっと」に名称変更)」を立ち上げました。お母さん目線で必要な情報を載せた「子育てマップ～赤ちゃん編～」

#### 杉山恵理さん

栃木県出身、稲城市民歴 16 年。南山小学校の保護者 & 教員組織「南山小学校サポートチーム」代表、稲城市青少年育成百村地区委員会委員長、子育て支援の「いこねっと」(稲城子育てネット) 代表を務める。座右の銘は、「この世で見たと思う変化に、あなた自身がなりなさい」。



いこねっと

や「いなぎ公園マップ」などを作りました。

そうした活動での経験を経て、いま一番の思いは、子供を取り巻く環境を今より良くするために動ける大人が増えていくようにしたい、ということです。「誰かがやってくれるはず」ではなく、環境を良くするのは自分たちだということも多くの方が理解し動いていける場作りを、と思っています。

南山地域は、稲城市内でも特に子供が増えています。新しく住民になった人などは、公園や遊び場の情報が不足していないか気になっています。市役所の web サイトもあります。少しフレンドリーではないように見えるし、かといって市役所に「税金で公園の地図を作って」とは言えないですね。どうしたら子育て環境が良くなるのか、周りの人たちと一緒に新しい街を楽しくするために動いて

#### 村松純香さん

神奈川県出身、稲城市民歴 14 年。食を中心とした親子のコミュニティ「すくすくキッチン」代表、SDGs をテーマに平尾小 PTA 有志の会として活動する「ミライ地球くらぶ」代表を務める。座右の銘は、スペイン語で「コラソン アビエルト (開かれた心)」。



ミライ地球くらぶ

もらえると思うなと思っています。

**村松** 私は、「すくすくキッチン」という親子で楽しむ食に関する活動が、地域活動の始まりでした。そもそもはうちの子が、どこかへ出かけて行って参加することにハードルが高かったり、その日の気分でドタキャンしたくなってしまうので、「自分の住んでいる地域で仲間たちと一緒に何か出来たら良いな」という思いで立ち上げました。

5人以上のグループを作って公民館の利用団体登録をしたら施設を無料で使えるので、「それは利用するしかないでしょ」ということから、どんどん広がって行って、今は60家庭、子供だけでも80人くらいいる団体になりました。

活動は本当に和気あいあいな雰囲気で、みんなでLINEグループを作って「今度、梅シロップ作るよ〜」とか「シナモンロール作るから参加する人〜?」のように、これからの予定や企画などをやり取りしています。地域的には平尾に特化しているので、「あそこに新しいお店ができるよ!」とか「今日、行ってみた〜」なんて口コミ情報も飛び交っています。

### お客も先生もない みんなが友達

**村松** そういうコミュニティに参加すると、みんな笑顔になっているし、親以外の大人と接するのは子供にとって良い経験だし、親としても自分以外の大人が子供を見てくれると、自分の子供の良いところが見えたり新たな気付きもあって、それがすごく良いなと思います。おこがましいのですが、この喜びをもっとたくさんの人に味わってほしい気持ちもあって、他にも色々重なって学校でやってみようと思ったのが「ミライ地球人くらぶ」でした。

**杉山** すごいですね! 村松さんのグループは人の集め方がとても上手だと思いました。「すくすくキッチン」に60家族も集まったのは、どういう理由なんでしょうね?

**村松** みんながお友達な感じですね。

**杉山** みんながLINEグループに参加していて、「お客さん」じゃないんですね。

**村松** 「お客さん」じゃないですし、私は「先生」ではありません。あえて縦の関係を作らないように、「あれ? どうやるんだっけ?」というようなことばかり言ってます。私がちょっと抜けているから、「自分がちゃんとしくなくちゃ」とみんなが思ってくれるのかも知れません。



「すくすくキッチン」の活動風景

「シュシュ」も、「すくすくキッチン」に参加する人たちに「乳幼児の親子がイベントなどで公民館へ来る日に合わせて、お昼ご飯を無料で提供することをやりたい」ってLINEを送ったら、「やるよやるよ」って40人くらい集まって、去年から月1回開催しています。集まったメンバーの居場所づくりにもなるので、お客さんが来て来なくてもいいし、顔を合わせればそこでまた何かつながりができて、次に学校で何かやろうという時にも声かけやすい。一度ボランティアをやると、他の活動にも参加しやすくなるんですよ。

### ゆるい雰囲気が温かい場をつくる

**司会** お話を伺っていると、親子で楽しもうというより、大人同士、お母さん同士の関係づくりに力を注いでいる印象を受けます。

**村松** いま子育てに困っている人や行き詰まりを感じている人、周囲の目を気にして「自分の子が迷惑かけちゃいけない、いけない」なんて気を張っている人に、少しはリラックスして気持ちを緩めてほしいんです。だから「すくすくキッチン」は、遅刻も早退もOKだしドタキャンもありで、お母さんの事情に合わせて参加してもらおうようにしています。そんなお母さんに一度来てもらおうと、「こんな温かい場所があるなんて思わなかった」なんて言ってもらえたりします。

**司会** そういう「すくすくキッチン」の雰囲気を作るために、特に何かしましたか?

**村松** 私は色々なモノを忘れました。「あ! 持ってくるの忘れた!」とか「みんなちょっと助けて!」みたいなことをよく言っています。半分わざとだったりするところもありますけど、「私も忘れ物や遅刻するからみんなもしていいんだよ」ということを伝えたいなと思って。

**司会** 結構、策士ですね。

**村松** 私は忘れっぽくて本当に忘れちゃうので、「私も出来ないんだ」という弱さをさらけ出すことを意識しています。

**杉山** 村松さんの話をしきりに「いこねっと」に当てはめて、「どうしたら人が集まるのか?」と考えるんですけど、初めての人に来るのは口コミやネットからですか?

**村松** ネットは全くやっていなくて、口コミです。「お友達誘ってもいい?」って訊かれるから、「うん、もちろん!」って。

**司会** 友達を誘おうって気持ちになるのが素晴らしい。

**杉山** 60家族のメンバーがいる中で、イベントを企画したり主導するのは運営の3人ですか?

**村松** そうですが、メンバーみんなが友達なので、普段の会話で「あれやりたいよね」って言ったら「じゃあやろうか」というノリなのです。誰か一人でも「やりたい」の声があったら、何人参加しようが気にしないでやろうって感じです。何故か時々すごく参加する人が増えます。

**司会** 団体の代表とか長になると、たいていのは仕切りたくなるじゃないですか。自分が仕切らないと会が回ら

ないと思ってしまう。でも村松さんは、策士だけど仕切ろうとしていない。

**村松** みんなが主体的に関わってくれれば、ワクワクして全部うまくいくというか。日本の風土だと、言い出した人が頑張らなければいけない雰囲気ですが、そうではなくて私は「提案してくれるのは、それ自体が素晴らしいことなんだよ！」って思っていますし、みんなにもそう言っています。誰かの何かには響くし、自分が今は出来なくても、実現出来る時がきっと来るから、「アイデアや願いはいくら言っても良いんだ」とみんなに思ってもらって、意見を言いやすい環境づくりを大切にしています。

### 住み良いまちは自分たちの手で

**杉山** いいですね！「主体的に自分たちの住む世界や暮らしを創っていく」とか「自分たちの手でまちづくりや楽しいことをしていく」という意識を持った人が、これから人口減少する日本でたくさん必要だと思っています。

例えば、近所の公園のここをこうしたいと思ったときに、それを行政に頼んで税金を使ってやるのではなくて、同じ思いを持つ地域の人たちが毎日少しずつ協働作業をしたらすごくいい感じになるとか。そういう活動を出来る人たちが増えてほしいし、そういう活動をするのが普通のことなんだという雰囲気が広まると良いな、と。

**村松** 本当に、そう思います！ 私は数年前まで、行政とか市政が自分の生活に密着しているとは思っていませんでした。やはり行政は、課題に優先順位みたいなことをつけていかなきゃならないから、全ての人の要望に応えることは出来ないでしょう。だけど「自分たちのまちは自分たちで住みやすくしていこう」と自ら動いていけば、そのうち行政も動いて、段々と住みやすいまちになる。そういうことなんだなあって感じました。

**杉山** 私が地域活動をしようと思ったきっかけは、子供が2歳のときでした。5月になると、上谷戸親水公園に鯉のぼりがたくさん揚がることを「広報いなぎ」で知りました。それで、初めて遊びに行ってみたら、おじさんがさきイカをくれてザリガニ釣りをさせてくれたんです。空にはたくさんの鯉のぼりが泳いで、カニやエビも獲れるし、取りたてのタケノコも売っている。「こんなに良い公園が地元にあるんだ！」と感動しました。

それまで私は、週末になるとリュックにおむつや着替えを入れて、車でどこかのショッピングセンターへ子供を連れて行くか、いつもの公園に遊びに行くだけ。地元のことを知らないから、そういう過ごし方しかなかったんです。水遊びで濡れてもすぐに帰れるような場所が近くにあるんだったら、コンビニでおにぎりでも買ってふらっと遊びに行ったほうが、どれだけ充実した時間を過ごせることか！

**村松** そう、実は地元の良いところがたくさんあるんですよ！

**杉山** そう！ それを知ってほしいという思いがあるんです！ そのために公園マップを自分たちで作ろうとしたんです。地域って、よく見てみると楽しいよ、あれこれみ

んなで共有したらもっと楽しくなるんじゃない？って。

南山で私が動いているのも、根本は同じです。色々な思いを表面化させて、あれこれみんなで共有したい。そこから、防災意識だったりお祭りだったり、地域を安全で楽しいものにした



「いこねっと」の活動風景

形になると思っています。南山はまだ地区として一体化してなくて、地域に防災関連の体制が整っていなかったりするんですよ。でもそういうことは誰かがやらないと、本当に災害が起きたときに困るじゃないですか。だから、そのための組織作りも大事だと考えています。

### 思いのある人を後押しする仕組みを

**司会** 話は尽きませんが、最後に、稲城のまちがこんなふうになったら良いなと思うことはありますか？

**杉山** 私は、今日のようなお話をもっと前から聞きたかったです。村松さんから、みんなが主体的に提案したり活動している様子を聞いて、本当にすごいと思いました。やはり色々な人の話を聞いて、「それは私も感じていたことだけど、同じように思った人がいたんだな、やっている人がいるんだな」って知ると、一歩踏み出すのを後押ししてくれると思うんです。だから、色々な活動をしている人の交流の場を増やすことが大事だと思いました。

あとはキュレーション（情報を集め整理して広める）の仕組みですね。平尾の情報はこうだよ、百村の情報はこうだよと、地域の情報交換が出来ると良いですね。動ける人、動きたい人はたくさんいると思うんです。みんなを後押しする情報発信などの仕組みづくりを、サポートセンターにはお願いしたいと思いました！ 動くのは当事者の私たち。でも最初の一步を踏み出せる場所・サポートをするよ、と是非広く伝えてほしいです。

**村松** 「なぜ地域コミュニティが必要か？」と考えたときに、一人じゃ寂しいから、一人じゃ何も出来ないからだ、と考えていましたが、今杉山さんがおっしゃったことそのまま、と思いました。本当に一人じゃ出来ないけど、同じように活動している人があそこにもいる、ここにもいる、と見えるだけでも違うし、色々な地域コミュニティはそういう意味でも必要だと感じました。

**司会** 今日は、これからのコミュニティづくりに大変参考になるお話を、どうもありがとうございました。

# 第17回通常総会を開催しました

去る5月27日、稲城市地域振興プラザ4階会議室において第17回通常総会を開催し、下記の議案について原案どおり承認されました。

- ①令和4年度事業報告について
- ②令和4年度活動計算および監査報告について
- ③剰余金処分案について
- ④令和5年度事業計画(案)について
- ⑤令和5年度活動予算(案)について
- ⑥理事、監事の選任について

## ○理事・監事一覧

理事長	角田 享		
副理事長	中村 達也	野口 貴美子	村尾 義廣
	中村 燈	種田 匡延	
理事	荒木 伸文	安東 道正	石黒 忠雄
	井手 大	梅村 秀樹	大塚 博之
	荻野 美鈴	佐藤 麻美子	田村 伸一
	筑根 瑞恵	浜田 有里恵	三村 大二郎
	室井 弘之	湯浅 栄理子	
監事	鶴飼 達彦	石田 惇子	

## ○よろしくお祈いします!!

### ～新任理事・新副理事長紹介～

#### ★ 新理事 荒木伸文(あらき・のぶみ)

この度サポートセンターいなぎの理事に承認されました、荒木伸文です。サポートセンターの皆様とは「市民まつり」で関わらせていただいたのが最初です。



私は稲城出身でもなく、地域の方々との関わりを持つ機会がなかったのですが、幼稚園の親父会に入会したことがきっかけで、様々な方と知り合うことができました。稲城市はとても素晴らしい街です。稲城市の魅力を発信できるような活動、市内の様々な団体とのパイプ役として活動していきたいと思っています。市内在住も浅く、まだまだ新参者ですが、ご指導ご鞭撻の程宜しくお祈いいたします。

#### ★ 新理事 佐藤麻美子(さとう・まみこ)

この度、理事に就任しました社会福祉法人稲城市社会福祉協議会の佐藤です。稲城で念願だった社協職員として地域福祉の業務に携わるようになり20年以上になりました。社協の業務を通じて得た様々な人との出会いが財産となっています。



皆さまと一緒に活動できることを楽しみにしています。よろしくお祈い申し上げます。

#### ★ 新理事 筑根瑞恵(つくね・みずえ)

「NPO ふれあい広場ポーポーの木」代表の筑根瑞恵です。NPOを立ち上げた25年前と今では、社会の状況も変わり、市民活動は今、転換期を迎えていると感じます。サポセンの活動に参加することによって、私自身、楽しみながら、様々な人やグループと交流・情報交換し、これからの方向性を模索してゆきたいと願っています。



#### ★ 新理事 室井弘之(むろい・ひろゆき)

市民活動を語る時に「市民協働」や「シビックプライド」という言葉がキーワードとして使われ始めて久しいですが、基本は「ひと」が「想い」を通じて繋がり、お互いの立場や意見を尊重しながら連携して行動し、達成感を持てるような活動として結実していくことが大切であり、それをサポートしていくことが役割であると思っています。特に若い世代が参加しやすい市民活動やサポートセンターのあり方を模索していきたいと思えます。



#### ★ 新理事 湯浅栄理子(ゆあさ・えりこ)

私が所属する「いなぎエコミューゼ」は、稲城のまちを「まるごとミュージアム」と捉え、地域の自然・文化を知るまち歩きを行っている団体です。活動の中で、稲城のまちの魅力を沢山発見してきました。また都市計画コンサルタントとして、住民参加のまちづくりを支援してきました。この経験を生かし、稲城の魅力発信事業等のお手伝いを出来たらと考えています。



#### ★ 新副理事長 村尾義廣(むらお・よしひろ)

サポートセンターの理事になって、主な関わり方は、Iまつりのふれあい部門の担当として参加し、また、手づくり市民まつりの担当として活動してきました。

これからのサポートセンターは、若い方達のカも借りながら、サポートセンターが取り組んでいる内容の宣伝や、果たしている役割をSNSなどで発信して、会員になっている団体の横の交流や親しみのあるサポートセンターを目指したいと思っています。

#### ★ 新副理事長 中村 燈(なかむら・あかり)

市民活動の歴史や稲城の変遷など、経験豊富な大先輩たちから色々教えていただきながら、気が付けばもう4期目のサポートセンター役員となりました。今まで教わったことを受け継ぎながら、市民活動がより楽しく有意義になるよう、皆様と一緒に活動の輪を広げていけたらいいなと思っています。どうぞよろしくお祈いいたします。

#### ★ 新副理事長 種田匡延(たねだ・まさのぶ)

20年ほど前、稲城に引っ越してきて最初に感銘を受けたのは、緑に包まれた里山と豊かな清流が身近にある自然の魅力でした。そして次に心に刻まれたのが、より良い地域づくりのため自発的に取り組んでおられる市民活動の活発なことでした。

その市民活動が、社会構造の変化や世代交代、コロナ禍の影響等で転換期を迎えている今、地域課題の解決や温かなコミュニティの再生に志をもって取り組まれている市民活動団体の皆さんを支援し、お役に立てるサポセンを目指して頑張ります!

## ○お疲れさまでした!! ～退任理事の皆さん～

本総会をもって、次の4名の方が理事を退任されました。長い間どうもありがとうございました。

- 小林攻洋さん
- 小川三男さん
- 熊谷毅志さん
- 和泉直子さん

